

【事例発表】

団体名：NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ

私たちは、「外国につながる子どもたち」の教育を支援し、「外国につながる子どもたち」と周囲の子どもたちが共に生きられる社会を実現するという理念のもと、神奈川県をベースに活動している団体です。

グローバル化が進み国境を越えた人の移動が世界中で増えていますが、日本も例外なく国境を越えて移動をする人々、そして「外国につながる子どもたち」が増えていきます。彼ら・彼女らが日本社会で育つ中で、制度や環境の違いによって不利益を被ることのないよう、社会の課題を明確にし、その解決をめざすべく多角的に事業を展開しています。

日本語学習支援は、2つの教室を運営しています。

- ①横浜教室（たぶんかフリースクールよこはま・横浜市南区に開設する学齢超過の子ども対象の日本語教室。
- ②相模大野教室（多文化学習活動センター（CEMLA）教室・相模大野に開設する地域の若者向け日本語教室。下の写真が活動の様子です。

今回のポスターセッションでは、

- ②相模大野教室での実践を中心に報告します。



当団体は1995年に実施された第1回目の高校進学ガイダンスをきっかけに任意団体として活動を開始し、16年の活動を経て2011年4月にNPO法人として新たなスタートを切りました。愛称はME-netです。ME-net = 「Multicultural Education Network, Kanagawa」の略で、「ミーネット」と読みます。

事業実施概要

事業名称	定住する外国につながる若者への日本語教育支援事業
地域の課題	神奈川県北部地域を中心とした地域は、定住する若者に加え新規に来日する若者も多いが、若者向けの日本語教室がほとんどないため、社会参加が困難な状況となっている。
事業の目的	地域に定住する外国につながる若者が、基礎からしっかりと日本語を学び、ひいては社会的な自立を目指し、自分の将来の生活設計や社会参画に生かせるような質の高い日本語を学べる場としての日本語教室を運営する。
事業の概要	日本語教室の設置・運営
	名称：在住する外国につながる若者のための日本語教室（相模大野教室） 目的：若者の将来の自立した社会参加を見据えた初中級から上級に至る日本語教育の場や支援の拠点づくりを目的とする。 対象：地域に住む外国につながる若者で、日本語指導が必要な人。 人数：78人（主な出身・国籍：フィリピン、中国、ベトナムなど全16カ国） 時間：週1回×2時間（全39回） 内容：学生が中心となって、個々の学習者の日本語レベルに応じた指導を行う。
	日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
	名称：定住する外国につながる子どもや若者の日本語教育支援の方法と課題 目的：大学との連携において、日本語教育の人材育成・研修を学生ボランティアや地域のボランティア希望者向けに行う。 対象：学生ボランティアや地域のボランティア希望者 時間：週1回×3時間（全10回） 人数：46人（出身・国籍：日本、ネパール、台湾、フィリピン、ペルー） 内容：実践的な日本語研修（7回）及び若者の就労に向けての教材作り他（3回）
事業の概要	日本語教育のための学習教材の作成
	名称：定住する外国につながる若者の社会参加（就労）のための日本語学習教材 目的：外国につながる若者が日本社会で就労するためには、一定程度以上の日本語力が必要である。そのために必要な日本語力をスキルアップするための教材を作成する。 対象：外国につながる若者で社会参加（就労）を目指す者 構成：90ページ 第1部 アルバイト・就職について知る 第2部 読んでみよう！ やってみよう！（バイトすごろく、電話対応、履歴書書き、面接練習） 第3部 支援するときのヒント
成果と課題	地域の日本語教育のセンター的な役割を得る意味でも3つの事業を通して地域の日本語ボランティアや支援者となつたり、交流できたことは大きな成果であると考えている。指導経験の豊かなスタッフや当事者のスタッフが学習者の心の支えになっていると考えている。
発表者から一言	ポスターセッションでは、本教室の特徴でもある、①高校・大学・地域連携②大学生ボランティアの活用③外国につながる若者の自立と社会参加に向けた日本語教育について発表いたします。忌憚のないご感想をいただければ幸いです。